

LG 3219

RDS データエディタ

取扱説明書

目次

第1章 概要

| | | |
|-----|----------------------|-----|
| 1-1 | 取扱説明書の構成..... | 1-1 |
| 1-2 | 概要..... | 1-1 |
| 1-3 | RDS 信号..... | 1-2 |
| 1-4 | RDS データエディタ..... | 1-3 |
| 1-5 | RDS ローター..... | 1-3 |
| 1-6 | データのダウンロード方法の流れ..... | 1-3 |

第2章 設置

| | | |
|-------|------------------|-----|
| 2-1 | インストール条件..... | 2-1 |
| 2-1-1 | 動作環境..... | 2-1 |
| 2-1-2 | 接続..... | 2-1 |
| 2-1-3 | エディタのインストール..... | 2-2 |

第3章 操作

| | | |
|-------|-------------------------|------|
| 3-1 | 概要..... | 3-1 |
| 3-2 | インストール..... | 3-1 |
| 3-3 | RDS データエディタ基本操作..... | 3-2 |
| 3-3-1 | RDS データエディタの起動・終了..... | 3-2 |
| 3-3-2 | RDS データの新規作成..... | 3-3 |
| 3-3-3 | 既存のファイルを開く..... | 3-3 |
| 3-3-4 | RDS データの保存..... | 3-4 |
| 3-3-5 | テキストデータファイルのインポート..... | 3-5 |
| 3-3-6 | テキストデータファイルのエクスポート..... | 3-6 |
| 3-4 | RDS データ作成..... | 3-8 |
| 3-4-1 | グループシーケンス入力..... | 3-8 |
| 3-4-2 | コードデータ入力..... | 3-12 |
| 3-4-3 | 編集モード..... | 3-13 |
| 3-4-4 | 規格の選択..... | 3-14 |
| 3-4-5 | PS データ作成..... | 3-14 |
| 3-4-6 | RT データ作成..... | 3-15 |
| 3-4-7 | TMC データ作成..... | 3-16 |

| | | |
|-------|-------------------------------|------|
| 3-5 | RDS ローター基本操作 | 3-19 |
| 3-5-1 | RDS ローターの起動・終了 | 3-19 |
| 3-5-2 | 対応機種選択 | 3-20 |
| 3-5-3 | RDS データテーブルの新規作成 | 3-20 |
| 3-5-4 | 既存のファイルを開く | 3-20 |
| 3-5-5 | RDS データテーブルの保存 | 3-21 |
| 3-6 | RDS データテーブル作成 | 3-22 |
| 3-6-1 | インポート | 3-22 |
| 3-6-2 | ファイル名編集 | 3-23 |
| 3-6-3 | 登録削除 | 3-24 |
| 3-7 | RDS データのダウンロード / アップロード | 3-25 |
| 3-7-1 | RDS データのダウンロード | 3-25 |
| 3-7-2 | RDS データのアップロード | 3-25 |
| 3-7-3 | RDS データのエクスポート | 3-26 |

第 1 章 概 要

1-1 取扱説明書の構成

この取扱説明書は次のとおり構成されています。

第 1 章 概 要

本ソフトウェアの概要について述べます。

第 2 章 設 置

本ソフトウェアのインストール条件について解説します。本ソフトウェアをご使用いただく前に必ずお読みください。

第 3 章 操 作

本ソフトウェアの機能と操作方法について、機能別に分類して説明します。

1-2 概 要

本ソフトウェアは、RDS 信号のデータを作成・編集する「RDS データエディタソフト」と、RDS データエディタにより作成されたデータを本体にダウンロードするための「RDS ローダーソフト」から構成されます。

詳しい操作方法是「第 3 章 操作」をご参照ください。

1-3 RDS信号

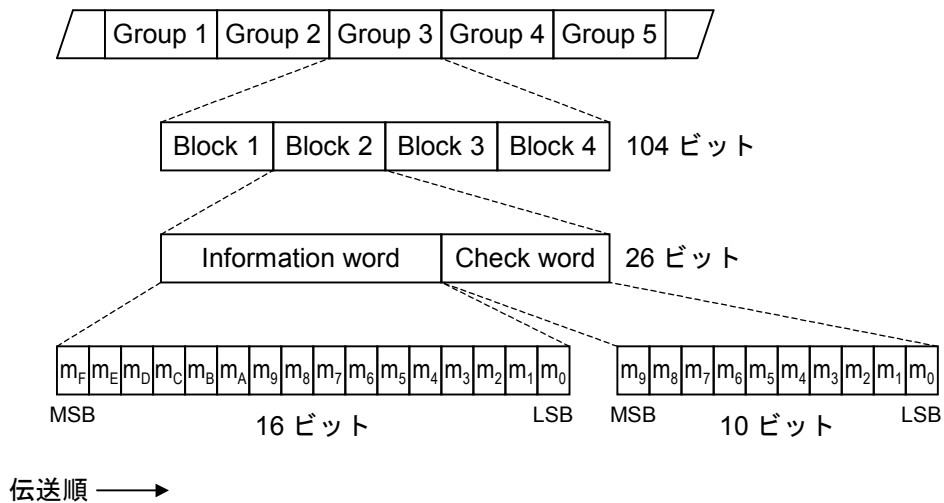
本ソフトウェアは、CENELEC EN 50067 で規定され欧州各国で放送されている RDS 信号と、NRSC / NAB で規定され米国で放送されている RBDS 信号のデータを作成・編集できます。

RDS 信号と RBDS 信号とは、放送地域の違いによる利用方法の違いが多少あるものの、変調方式・伝送方式・データ構成などは同一です。したがって、本書では特に断りが無い限り、RBDS 信号も含めて RDS 信号と記述します。

以下に RDS 信号の概要を示します。

1-1 表 RDS 信号の概要

| 項 目 | 仕 様 |
|-----------|----------------------------------|
| サブキャリア周波数 | 57 kHz |
| FM 偏移 | ±2 kHz |
| 変調方式 | BPSK (Bi-Phase Shift Keying) |
| 符号化方式 | 差動符号化 |
| データレート | 1 187.5 bps |
| 帯域幅 | 57 kHz ±2.4 kHz (100 %コサインロールオフ) |



1-1 図 RDS データ構成

1-4 RDSデータエディタ

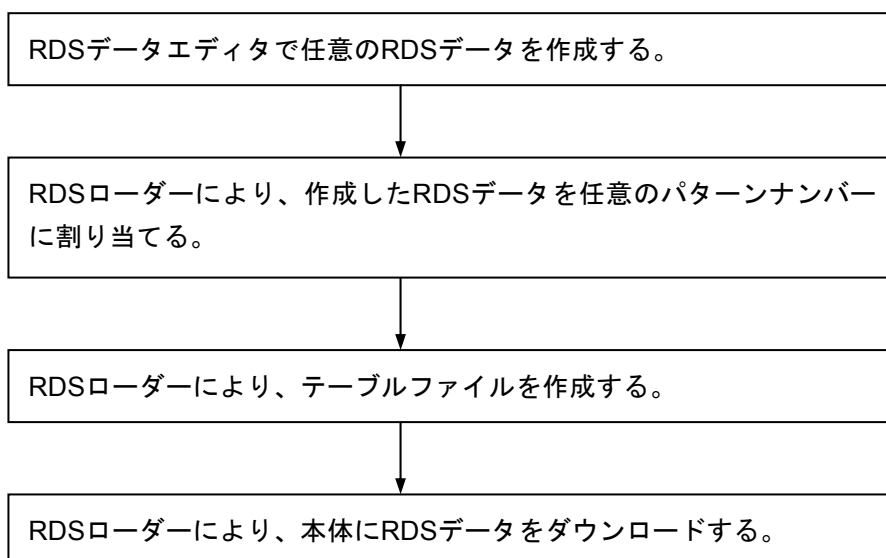
RDS データエディタからコードデータを入力することにより、自動的に RDS データが構築されます。作成した RDS データは、RDS ローダーを介して本体にダウンロードすることにより、本体の変調出力信号として扱えます。

詳しい操作方法は「第3章 操作」をご参照ください。

1-5 RDSローダー

RDS データエディタにより作成されたデータを、パターンナンバーを指定して本体にダウンロードします。詳しい操作方法は「第3章 操作」をご参照ください。

1-6 データのダウンロード方法の流れ



第 2 章 設 置

2-1 インストール条件

本ソフトウェアは RDS 信号のデータを作成・編集・ダウンロードするための Microsoft Windows 上で動作するソフトウェアです。RDS データエディタソフトまたは RDS ローダーで作業を行うには、まずコンピュータのハードディスクに各ソフトウェアをインストールする必要があります。以下に RDS データエディタソフトと RDS ローダーを動作させるために必要なコンピュータの環境、コンピュータと本器との接続方法、ソフトウェアのインストール方法について順を追って説明します。

2-1-1 動作環境

付属のエディタは Microsoft Windows 上で動作するソフトウェアです。したがって、Microsoft Windows が使用できる環境を備えたコンピュータ上では、ほとんどの場合にエディタは動作します。エディタを動作させるためにコンピュータに要求される環境条件を以下に記します。

2-1 表 動作環境

| 項 目 | 要 求 条 件 |
|----------|--------------------------------------------------------------|
| 対応 OS | Windows 98 / 2000 / XP |
| 適応コンピュータ | 上記 OS が動作するもの。100 % AT 互換機を推奨。 |
| 必要メモリ | 16 M バイト以上 (Windows 95/98) * 32 M バイト以上 (Windows NT4.0) * |
| CD ドライブ | CD-R 読み込み対応。 |
| ハードディスク | インストール時に 5 MB 以上の空き容量が必要。 |
| ディスプレイ | 640×480 ドット (VGA) 必須、800×600 ドットを推奨。 |
| キーボード | 上記 OS に対応しているもの。 |
| シリアルポート | 1 つ以上の RS-232-C 対応の通信ポートが使用可能なこと。 |

* : Windows 98, Windows 2000, Windows XP はマイクロソフト社の登録商標です。

2-1-2 接 続

RDS ローダーで作成したテーブルファイルを本体にダウンロードするには、コンピュータと本体を、RS-232-C インタフェースで接続する必要があります。

接続には、下記仕様のケーブルを使用してください。

- ・ D-sub 9 ピン メス - D-sub 9 ピン メス リバース接続ケーブル

2-1-3 エディタのインストール

- ① コンピュータを起動します。
- ② 付属の CD 「RDS DATA EDITOR」を CD ドライブにセットします。
- ③ インストール画面が立ち上がります。
- ④ インストール画面にしたがってファイルのインストールを行ってください。
- ⑤ インストール画面が表示されない場合は、[スタート] - [ファイル名を指定して実行...]を選択します。
- ⑥ [コマンドライン:]ボックスに<ドライブ名>: ¥setup と入力し、<OK>ボタンを選択します。
たとえば、CD ドライブ D にセットした場合には “D:¥setup” と入力後に<OK>を選択します。

第3章 操作

3-1 概要

この章では、パーソナルコンピュータ上での「RDS データエディタソフト」「RDS ローダー」の操作方法を説明します。以下の順番で説明します。

- 3-2 インストール
- 3-3 RDS データエディタの基本操作
- 3-4 RDS データ作成
- 3-5 RDS ローダーの基本操作
- 3-6 RDS データテーブル作成
- 3-7 RDS データのダウンロード / アップロード

3-2 インストール

コンピュータへのインストールにおける、コンピュータ側の動作環境、接続については 2-1 節に記載されていますので、インストール前に必ずお読みください。

以下にインストールの手順を示します。

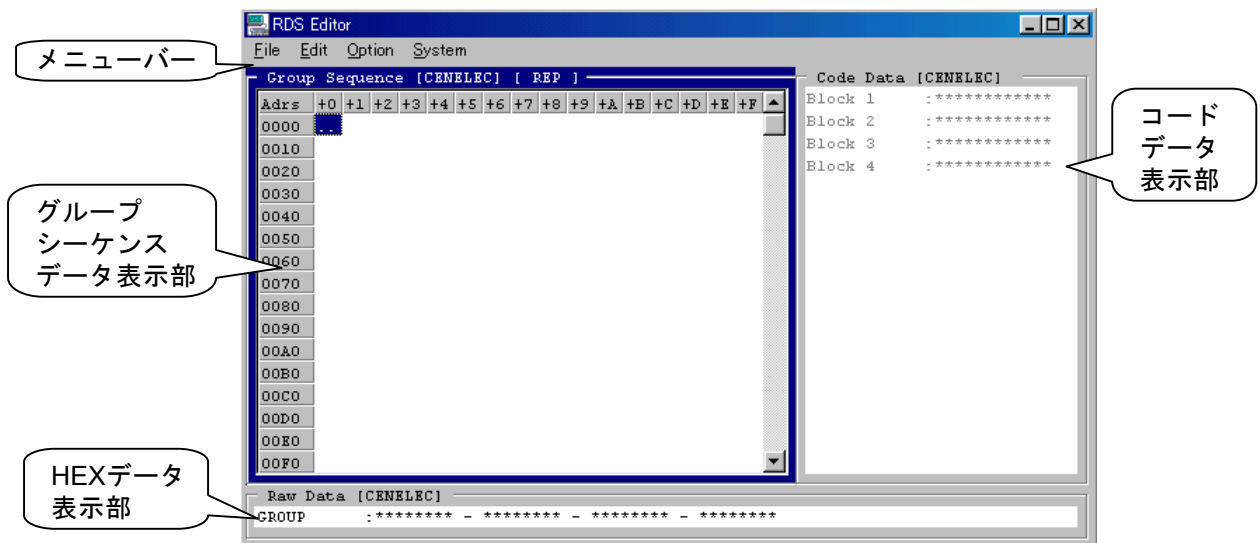
- ① コンピュータを起動します。
 - ② 付属の CD「RDS DATA EDITOR」を CD ドライブにセットします。
 - ③ インストール画面が立ち上がります。
 - ④ インストール画面にしたがってファイルのインストールを行ってください。
 - ⑤ インストール画面が表示されない場合は、[スタート] - [ファイル名を指定して実行]を選択します。
 - ⑥ [コマンドライン:]ボックスに<ドライブ名>: ¥setup と入力し、<OK>ボタンを選択します。
- たとえば、CD ドライブ D にセットした場合には“D:¥setup”と入力後に<OK>を選択します。

3-3 RDSデータエディタ基本操作

3-3-1 RDS データエディタの起動・終了

(1) RDS データエディタの起動

3-2 節でインストールしたエディタのアイコンをマウスでダブルクリックすると、以下に示すエディタの初期画面が表示されます。



- ・メニューバー

操作に必要な機能のメニューがツリー形式で表示されます。

- ・グループシーケンスデータ表示部

グループシーケンスを作成するときに使用する領域です。

- ・コードデータ表示部

コードデータを作成するときに使用する領域です。

グループシーケンス表示部にあるカーソルの指すグループ種別により必要な入力項目が表示されます。

- ・HEX データ表示部

コードデータ表示部の表示内容を、そのまま規格に基づいて、16 進データへ変換し、表示しています。

(2) RDS データエディタの終了

RDS データエディタを終了する場合は、**×** ボタンをクリックするか、メニューバーで [File]-[Exit] を選択します。

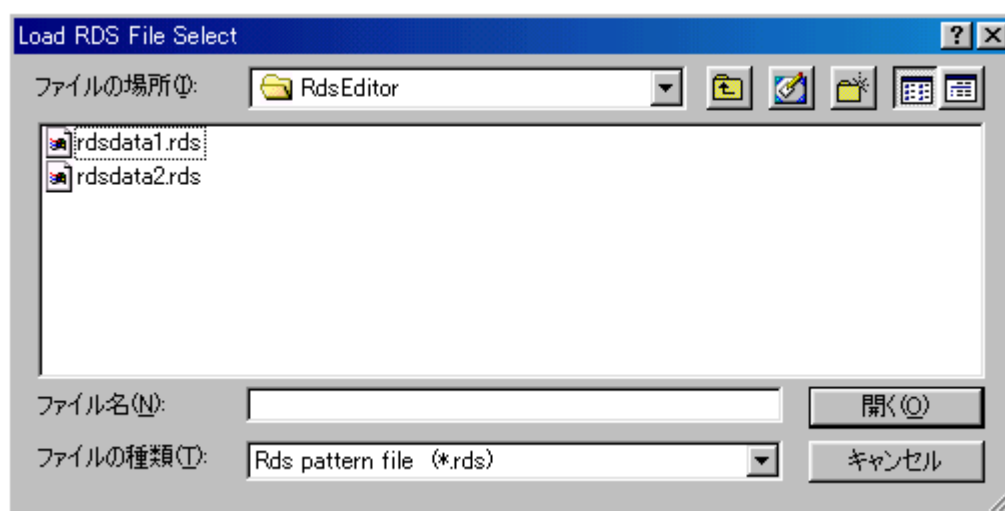
3-3-2 RDS データの新規作成

メニューバーで [File] - [New] を選択すると、グループシーケンスデータ表示部のデータがクリアされ、3-3-1 項で示した初期画面と同様の画面となり、新しい RDS データを編集できるようになります。

3-3-3 既存のファイルを開く

すでに作成済みの RDS データファイルを開きます。手順は以下の通りです。

- ① メニューバーで [File] - [Open] を選択すると、以下に示すダイアログが開きます。



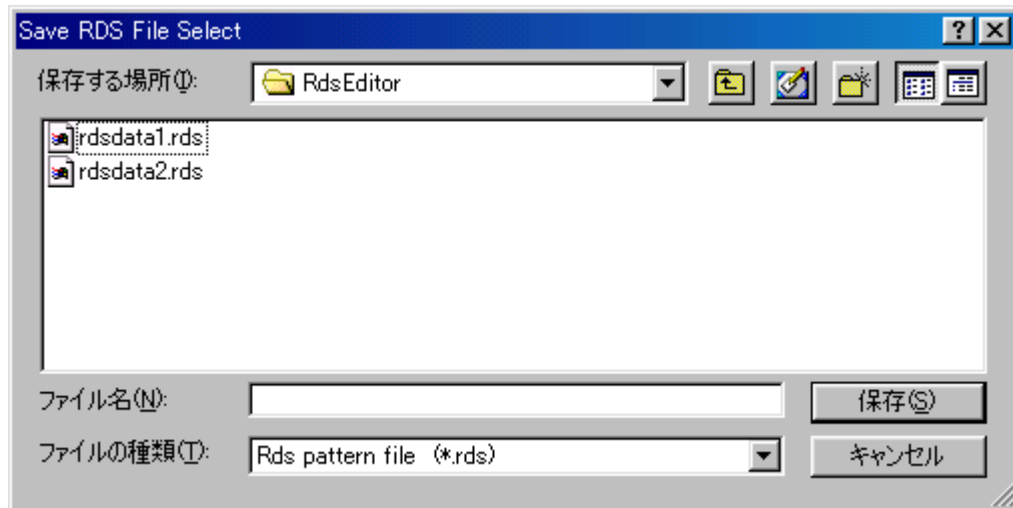
- ② 開きたいファイルを選択し、[開く]ボタンをクリックすると、選択した RDS データファイルが開きます。

3-3-4 RDS データの保存

(1) 名前をつけて保存

現在開いている RDS データファイルに、ファイル名をつけて保存します。手順は以下の通りです。

- ① メニューバーで [File] – [Save As...] を選択すると、以下に示すダイアログが開きます。



- ② [ファイル名] ボックスに任意のファイル名を入力して、[保存] ボタンをクリックすると、RDS データファイルが保存されます。ファイルの拡張子は “.rds” となります。

(2) 上書き保存

現在開いている RDS データファイルを上書き保存します。

メニューバーで [File] – [Save] を選択すると、ファイルが上書き保存されます。

■ 備 考

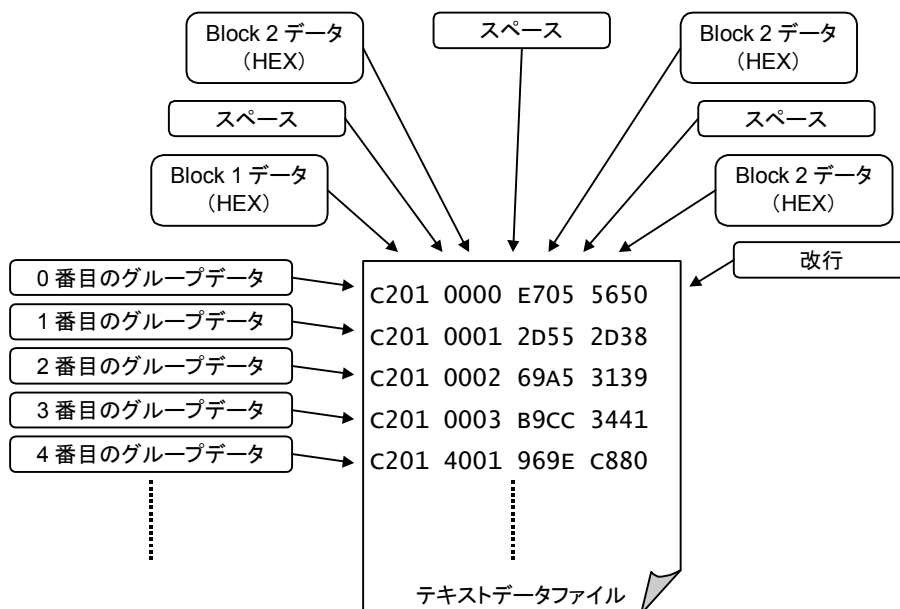
ファイル名がつけられていない新規作成データに上書き保存の操作を行うと、(1)に示すダイアログが表示されます。ファイル名をつけて保存を行ってください。

3-3-5 テキストデータファイルのインポート

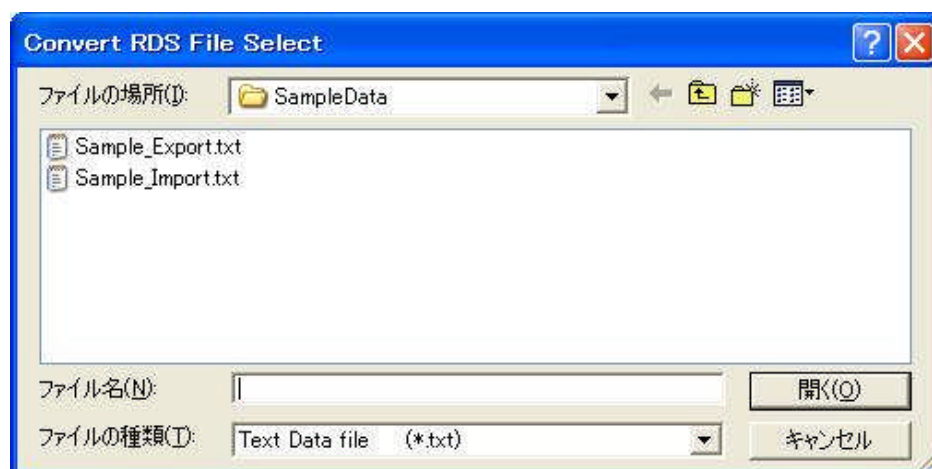
RDS データエディタは、テキスト形式で記述された RDS データファイルを読み込み、エディタ上に展開して編集することができます。

インポート可能なテキストデータのフォーマットを以下に記します。

- 1 行が 1 グループのデータに相当します。
- 各行は 4 つのブロックデータで構成します。
- 各ブロックデータは、16 ビットの Information Word (1-3 節、図 1-1 参照) を 16 進表記で記述します。
- 各ブロック間はスペースで分離します。
- ファイル中 2048 番目以降のグループデータは無視されます。



- ① メニューバーで [File] - [Import...] を選択すると、ファイルダイアログが開きます。



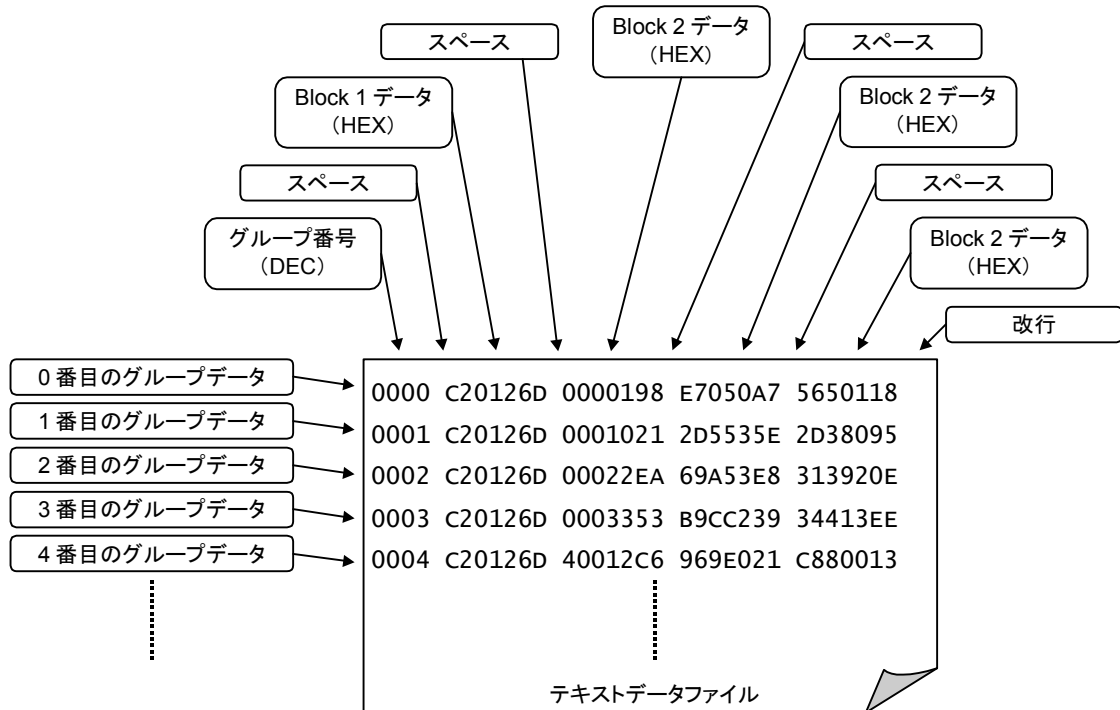
- ② 開きたいファイルを選択し、<開く>ボタンをクリックすると、選択したテキストデータファイルを RDS データエディタ上に展開します。

3-3-6 テキストデータファイルのエクスポート

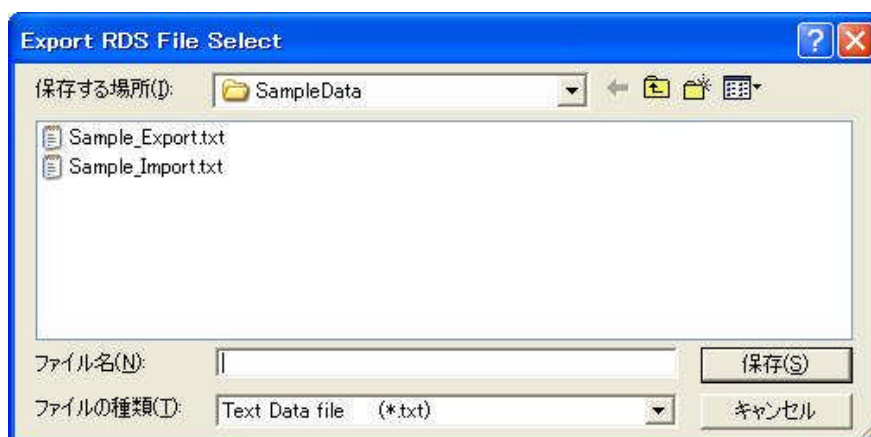
RDS データエディタは、編集した RDS データをテキスト形式で記述された RDS データファイルとして保存することができます。

エクスポートにより保存されるテキストデータのフォーマットを以下に記します。

- 1 行が 1 グループのデータに相当します。
- 各行はグループ番号と 4 つのブロックデータで構成します。
- 各ブロックデータは、16 ビットの Information Word と 10 ビットの Check Word （1-3 節、図 1-1 参照）を 16 進表記で記述します。
- 各ブロック間はスペースで分離します。
- エラーデータ、バーストデータ、ローカルタイムデータは保存されません。



- ① メニューバーで [File] – [Export...] を選択し、ファイルダイアログを開きます。



- ② [ファイル名] ボックスに任意のファイル名を入力して、<保存>ボタンをクリックすると、RDSデータがテキストデータファイルとして保存されます。ファイルの拡張子は ".txt" となります。

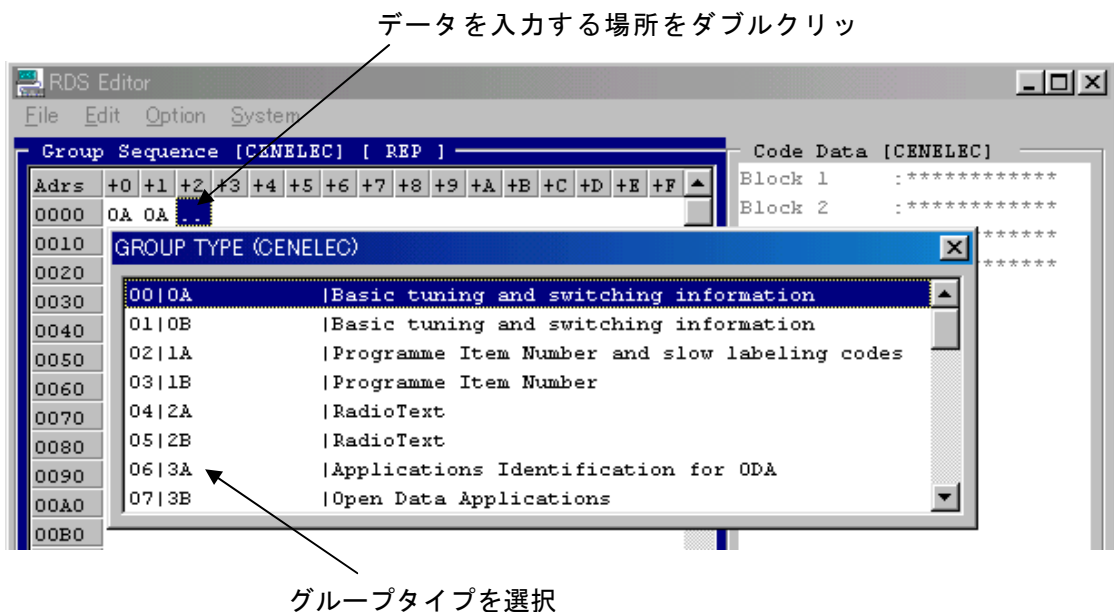
3-4 RDSデータ作成

3-4-1 グループシーケンス入力

出力する RDS データのグループシーケンスを作成します。最大 2048 グループまで入力できます。

(1) 操作手順

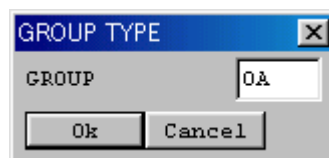
- ① グループシーケンスデータ表示部をクリックします。
- ② データを入力する場所をダブルクリックします。
- ③ グループタイプを選択します。



ここで②、③の操作を行う代わりに、キーボードから直接グループタイプを入力する方法もあります。

例) タイプ“0A”を入力する場合

キーボードから“0”を入力すると設定ダイアログが開き、続けて“A”→リターンの順に入力すると、現在のカーソル位置に“0A”タイプが入力されます。



データを入力する際に、指定したデータを挿入するか上書きするかをあらかじめ設定できます。

モードを切り換えるには <Insert>キーを入力してください。

現在どちらのモードが設定されているかは、グループシーケンスデータ表示部の枠上に表示されています。

[REP] : 上書モード

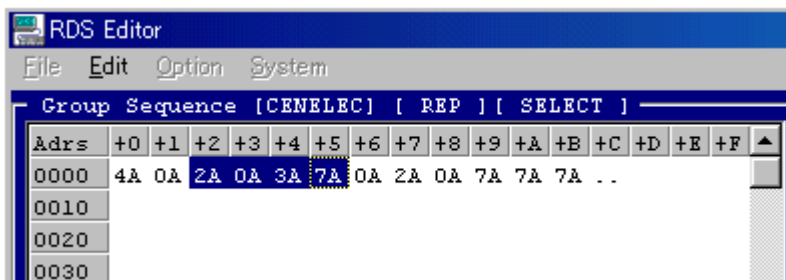
[INS] : 挿入モード

(2) 編集機能

グループシーケンスデータ表示部では次の編集操作が可能です。

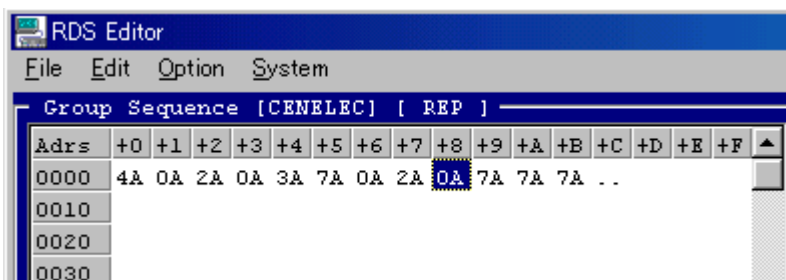
(a) コピー

- ① マウスでコピーしたい範囲をドラッグします。グループシーケンスデータ表示部の枠上に [Select] と表示されます。

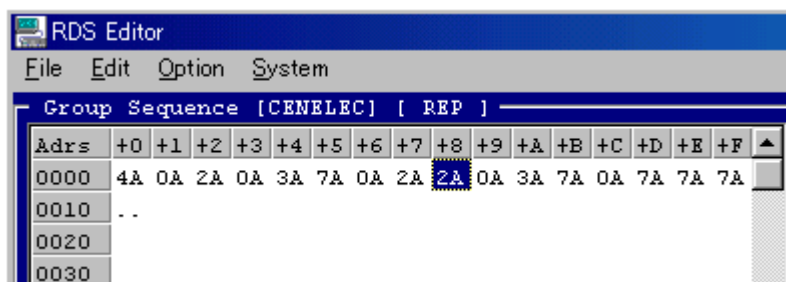


- ② メニューバーで [Edit] - [Copy] を選択します。

- ③ 挿入したい位置へカーソルを移動します。

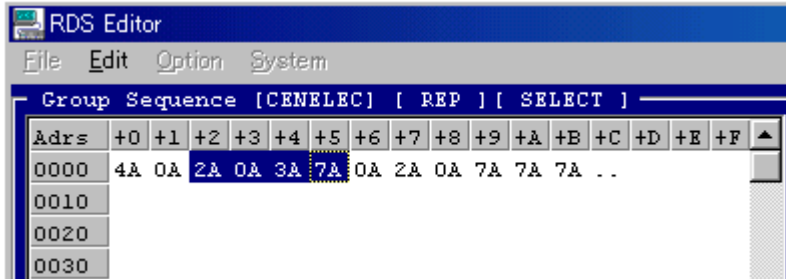


- ④ メニューバーで [Edit] - [Paste] を選択するとコピーしたデータが貼り付けられます。

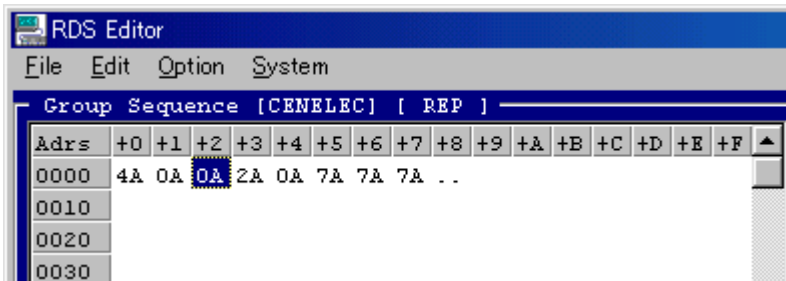


(b)切り取り

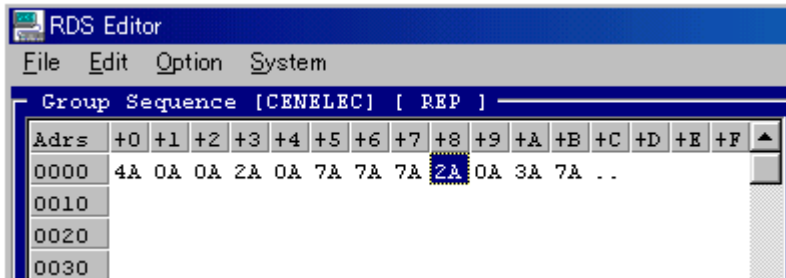
- ① マウスで切り取る範囲をドラッグします。グループシーケンスデータ表示部の枠上に [SELECT] と表示されます。



- ② メニューバーで [Edit] – [Cut] を選択します。



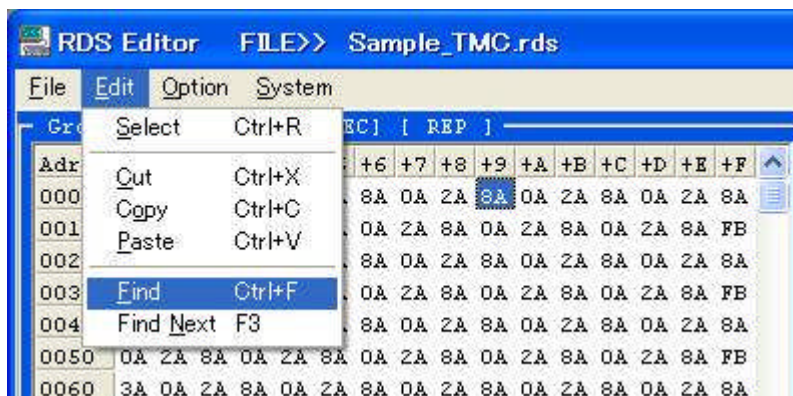
- ③ 貼り付け先を指定して、メニューバーで [Edit] – [Paste] を選択することにより、切り取ったデータを移動させることもできます。



- ④ 1 グループのみ削除したい場合は、キーを入力すると、カーソル位置にあるグループのみ削除されます。

(C)グループ検索

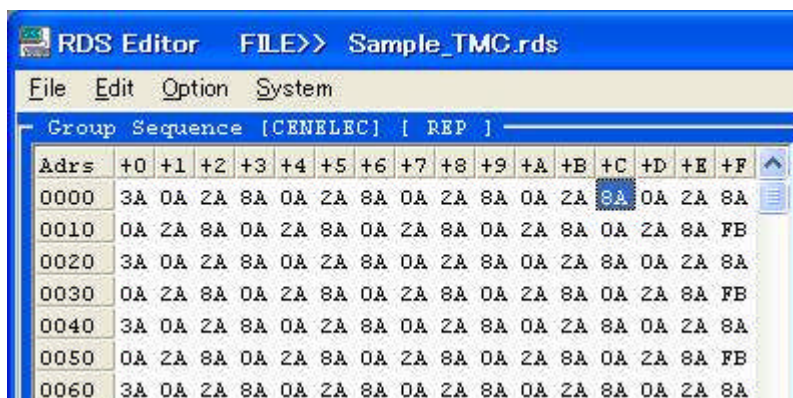
- ① メニューバーで [Edit] - [Find] を選択し、検索ダイアログを開きます。



- ② 検索するグループタイプと検索方向（ForwardまたはBack）を設定します。



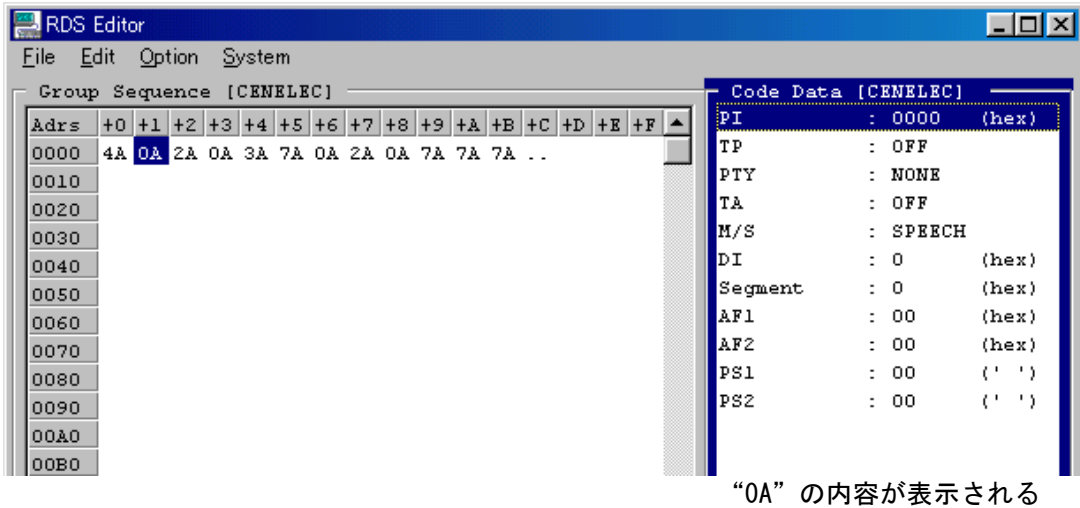
- ③ <OK>ボタンをクリックすると検索を実行し、指定のグループタイプを認識した場合は、カーソルを移動して示します。
- ④ 続けて次の検索を実行するときは、キーボードの<F3>キーを押してください。



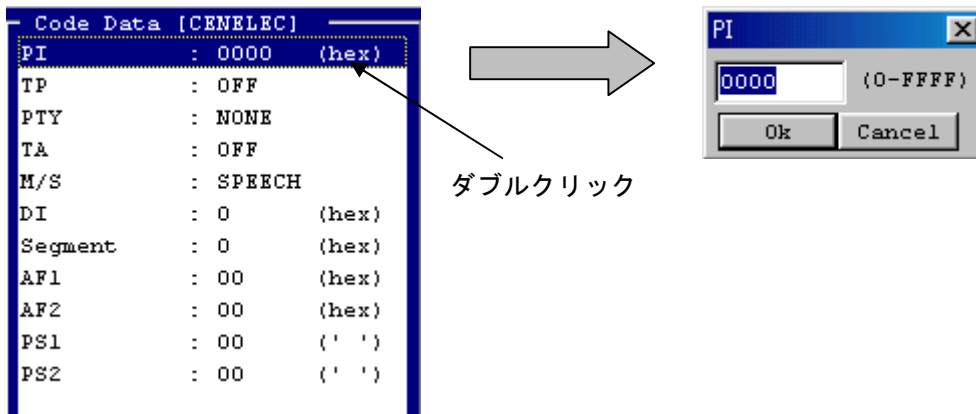
3-4-2 コードデータ入力

1 グループタイプごとにデータを作成します。

- ① コードデータ表示部をクリックします。



- ② データを入力するコードをダブルクリックすると、コードに応じた設定ダイアログが開きます。



- ③ 項目選択あるいは数値入力を行います。

コードデータ部を出ることなしに、対象としているグループを変更したい場合は、カーソル移動キー(←→)を押します。

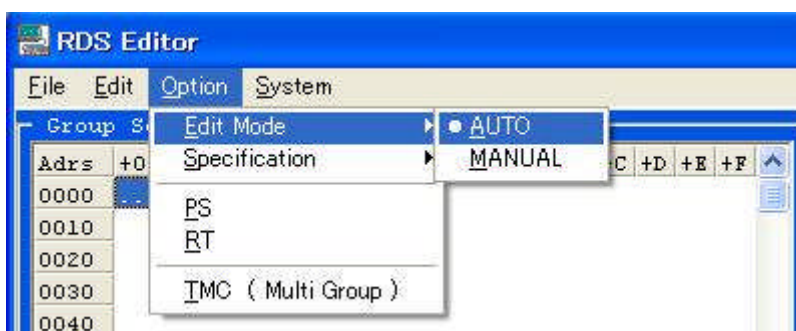
現在入力対象となっているグループをあらわすカーソル表示が移動し、そのグループに応じた項目がコードデータ表示部に表示されます。

3-4-3 編集モード

「RDS データエディタ」は入力するデータに対して、以下の 2 つのモードでデータを作成できます。

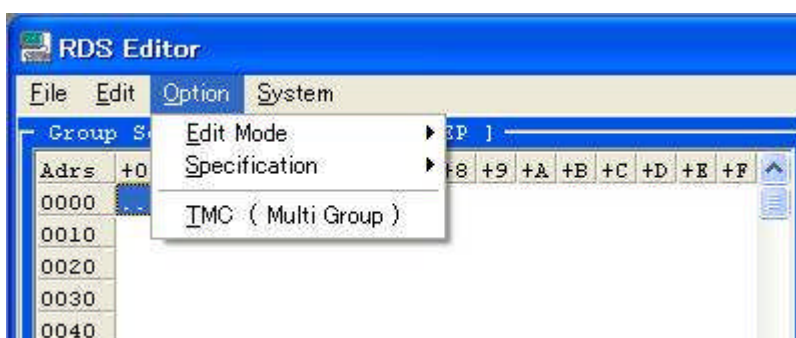
- ・オート編集モード..... PI コード、PTY コード、TP コード、TA コード、M/S コードは、RDS データパターン全体で 1 個として扱い、自動生成します。
DI セグメントアドレス、ページングセグメントアドレス、PSN コードアドレス、ラジオテキストセグメントアドレスなど、アドレス管理を行わなければならないものについては、自動生成します。
- ・マニュアル編集モード 自動生成は行わず、コードデータ表示部から入力されたデータは表示されている 1 グループについてのみ有効です。

- ① メニューバーの [Option] - [Edit Mode] を選択します。現在選択されている編集モードの左側に ●印が表示されます。



- ② “AUTO”、“MANUAL” のいずれかを選択します。

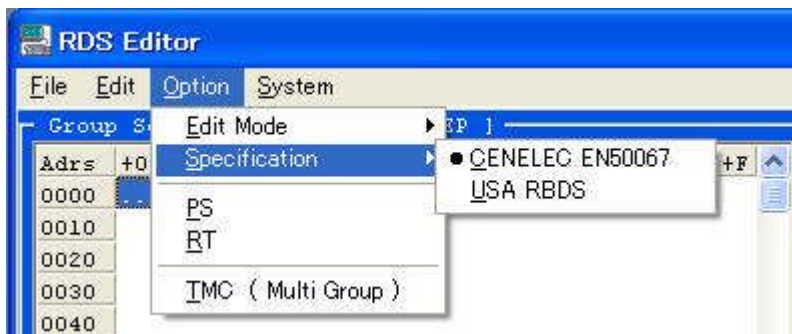
マニュアル編集モードに設定されている場合は、メニューバーの [Option] を選択するとメニュー表示が下記ようになります。



3-4-4 規格の選択

「RDS データエディタ」はコードデータ表示部からの入力を欧州の CENELEC 規格にもとづいて行うか、米国 NAB 規格にもとづいて行うか設定できます。

- ① メニューバーの [Option] - [Specification] を選択します。現在選択されている規格の左側に●印が表示されます。



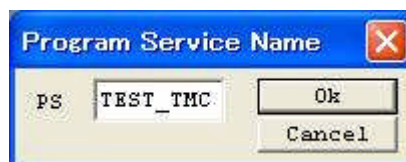
- ② “CENELEC”、“RBDS” のいずれかを選択します。選択した規格はグループシーケンス表示部、コードデータ表示部、HEX データ表示部のそれぞれ枠上に “CENELEC”、“NAB” と表示されます。

3-4-5 PS データ作成

RDS データエディタは、オート編集モードにおいて PS (Program Service name) コードデータを一括編集できます。

RDS データエディタをオート編集モード (「3-4-3 編集モード」) に設定し、PS コード入力ダイアログで 8 文字の PS コードを入力することで、グループシーケンス表示部に配置されている 0A および 0B グループに自動的に PS コードが割り付けられます。このとき 0A または 0B のセグメントアドレスは、0 から 3 まで順次自動的に設定されます。

- ① メニュー表示部の [Option] - [PS] を選択し、PS コード入力ダイアログを開きます。
8 文字の PS コードを入力し<OK>ボタンをクリックします。



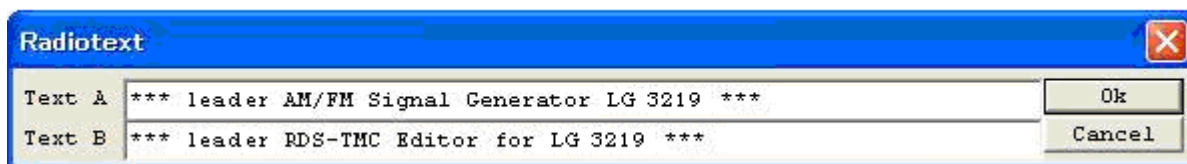
3-4-6 RT データ作成

RDS データエディタは、オート編集モードにおいて RT (Radio Text) コードデータを一括編集できます。

RDS データエディタをオート編集モード (「3-4-3 編集モード」) に設定し、RT コード入力ダイアログで最大 64 文字の RT コードを入力することで、グループシーケンス表示部に配置されている 2A および 2B グループに自動的に RT コードが割り付けられます。このとき 2A または 2B のセグメントアドレスは、0H から FH まで順次自動的に設定されます。また、グループタイプ 2B の RT は、最大 32 文字で制限されます。

- ① メニュー表示部の [Option] - [RT] を選択し、RT コード入力ダイアログを開きます。

64 文字の RT コードを入力し<OK>ボタンをクリックします。



3-4-7 TMC データ作成

RDS データエディタは、オート編集モードにおいて TMC (Traffic Message Channel: ENV 12313-1: 1998) コードのマルチグループメッセージを一括編集することができます。

RDS データエディタをオート編集モード (「3-4-3 編集モード」) に設定し、マルチグループメッセージ編集ダイアログで、CI コード 1 から 6 に対応する Direction、Extent、Event、Location、Option Message の各コードを入力することで、グループシーケンス表示部に配置されている 8A グループに自動的に TMC の各コードが割り付けられます。

このときグループタイプ 8A の "GROUP" が "MULTI" に設定されているものについてのみ自動編集が適用されます。8A の FI (First group Indicator)、SG (Second group Indicator)、GSI (Group Sequence Indicator) は、順次自動的に設定されます。

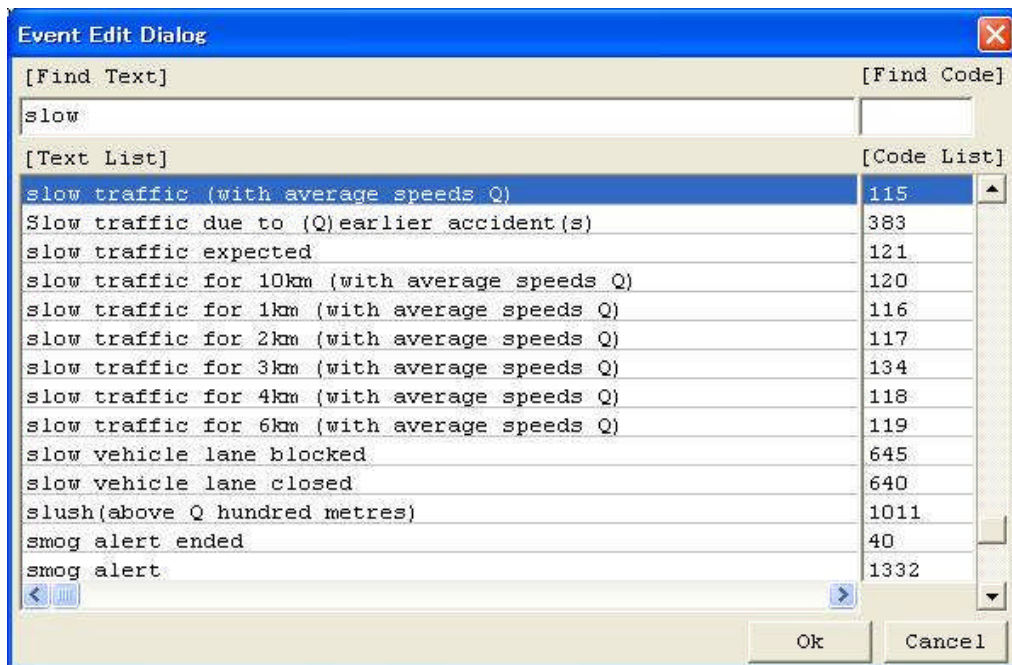
また、マルチグループメッセージの繰り返し回数 (Repetition) を設定することにより、グループタイプ 8A の繰り返し送信も自動的に設定されます。

- ① メニュー表示部の [Option] - [TMC (Multi Group)] を選択し、マルチグループメッセージ編集ダイアログを開きます。

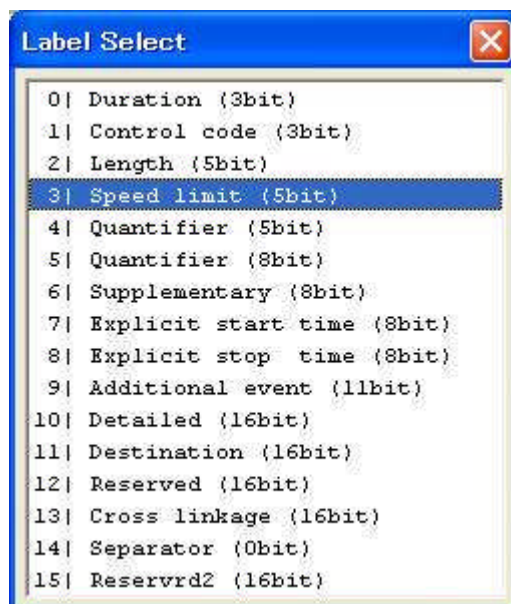
| [Label] | [Data] | [Group] |
|------------------------------|--------|-----------|
| 1 Speed limit (5bit) | 10 | (Dec) 2 |
| 2 Explicit start time (8bit) | 64 | (Dec) 2 |
| 3 Explicit stop time (8bit) | 80 | (Dec) 2-3 |

- ② 設定したい CI コードのタブをクリックし、各コードを設定します。"Location" コードは 16 進数で入力してください。

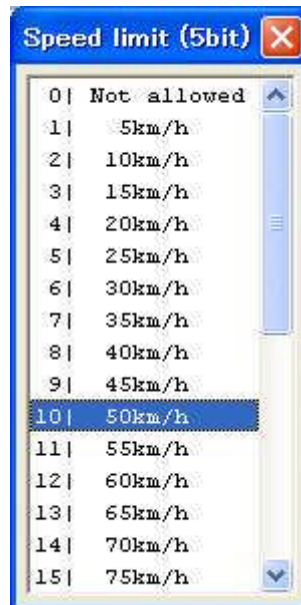
- ③ “Event” コードは、ダブルクリックするとリストが表示されます。上段左に検索文字列、または上段右に検索コード (10 進数) を入力すると候補リストが表示されます。設定したいイベントを選択し<OK>ボタンを押すと、マルチグループメッセージ編集ダイアログに設定値が 16 進数で反映されます。



- ④ “Option Message” コードは<Add>ボタンで追加、ボタンで削除できます。ラベル表示部をダブルクリックすると、ラベル選択ダイアログが表示されます。設定したいラベルをクリックするとラベル設定が確定します。



- ⑤ “Option Message” のデータ表示部をダブルクリックすると、項目に応じたパラメータ設定ダイアログが表示されます。これにより各ラベルに対するデータを設定します。



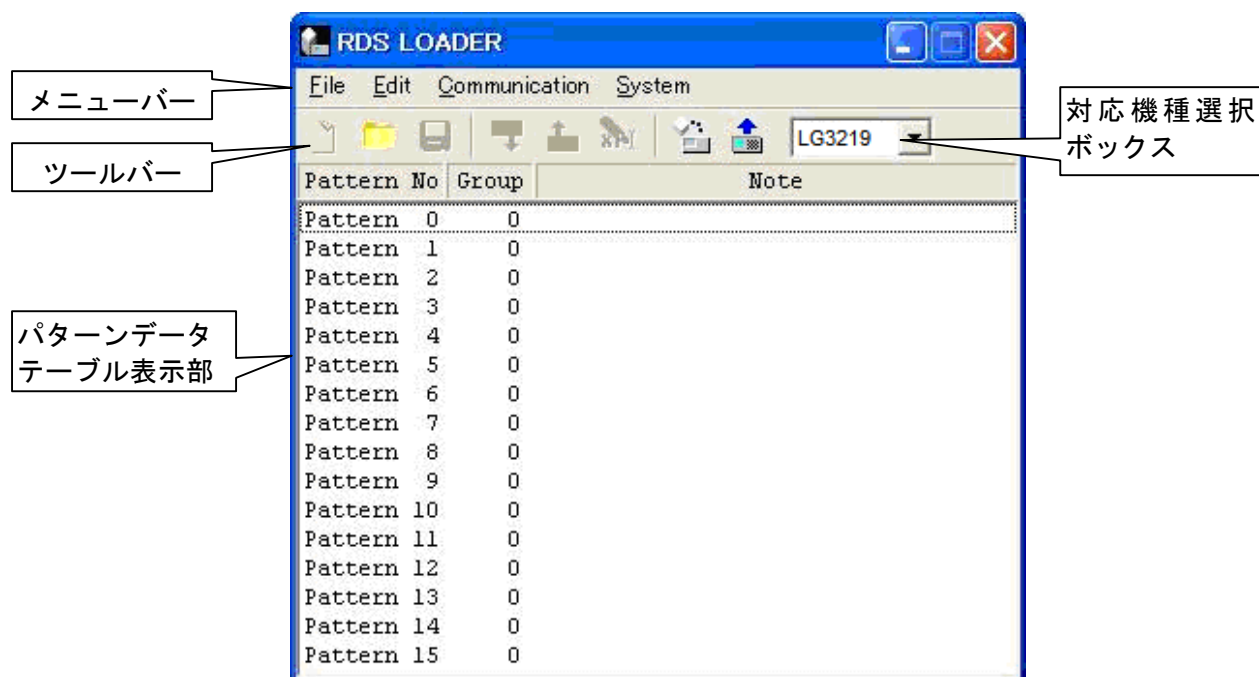
- ⑥ 同様に、必要に応じて他の CI に対する各コードの設定を行います。
- ⑦ 繰り返し回数 “Repetition” を 2 以上に設定すると、同じ内容の 8A を設定回数分繰り返すように、グループシーケンス表示部に配置されている 8A グループに自動的に TMC の各コードが割り付けられます。
- ⑧ 最後に<OK>ボタンをクリックすると TMC マルチグループメッセージの一括編集が確定します。

3-5 RDSローダー基本操作

3-5-1 RDS ローダーの起動・終了

(1) RDS ローダーの起動

3-2 節でエディタと同時にインストールされた RDS ローダーのアイコンをマウスでダブルクリックすると、以下に示す RDS ローダーの初期画面が表示されます。



- ・メニューバー

操作に必要な機能のメニューがツリー形式で表示されます。

- ・ツールバー

よく使う機能の一部がアイコンで表示されます。


- ・パターンデータテーブル表示部

RDS エディタで作成されたデータを指定したパターン番号に登録するとき使用する領域です。

- ・対応機種選択ボックス


RDS データをダウンロードする対象となる機種を選択します。現在表示されている機種にデータをダウンロードできます。

(2) RDS ローダーの終了

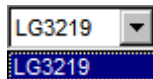
RDS ローダーを終了する場合は、 ボタンをクリックするか、メニューバーで[File]→[Exit]を選択します。

3-5-2 対応機種選択


RDS データをダウンロードする機種を選択します。

対応機種選択ボックスの  ボタンをクリックすると、下図のようにメニューが開きます。

LG3219 を選択してください。




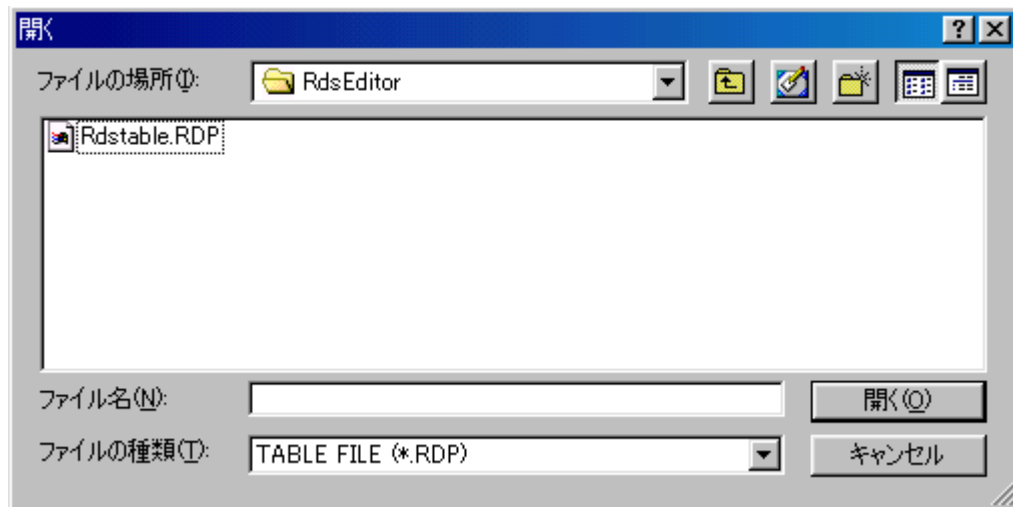
3-5-3 RDS データテーブルの新規作成

メニューバーで [File] - [New] を選択するか、ツールバーの  をクリックすると、パターンデータテーブル表示部のデータがクリアされ、3-5-1 項で示した初期画面と同様の画面となり、新しい RDS データテーブルを編集できるようになります。

3-5-4 既存のファイルを開く

すでに作成済みの RDS データテーブルファイルを開きます。手順は以下の通りです。

- ① メニューバーで [File] - [Open] を選択するか、ツールバーの  をクリックすると、以下に示すダイアログが開きます。



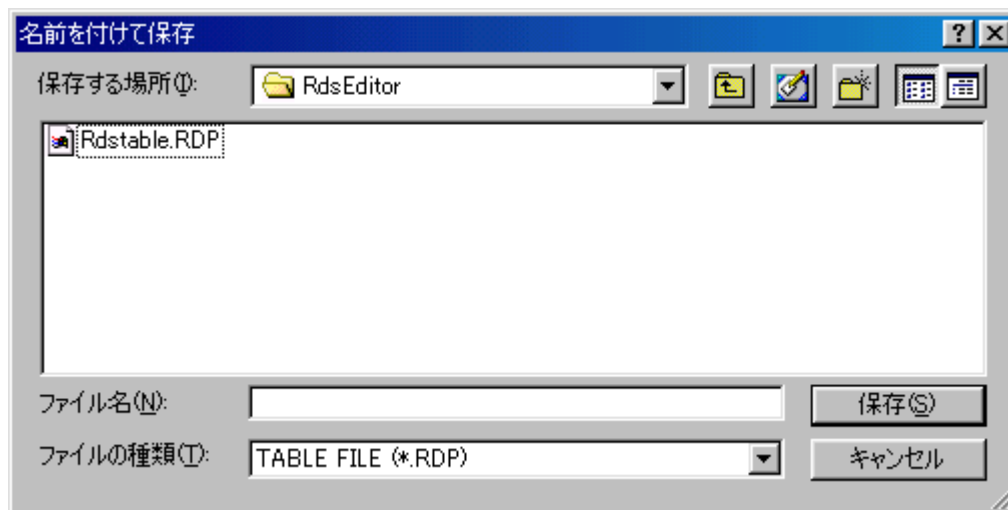
- ② 開きたいファイルを選択し、[開く]ボタンをクリックすると、選択した RDS データテーブルファイルが開きます。

3-5-5 RDS データテーブルの保存

(1) 名前をつけて保存

現在開いている RDS データテーブルファイルに、ファイル名をつけて保存します。手順は以下の通りです。


- ① メニューバーで [File] – [Save As...] を選択すると、以下に示すダイアログが開きます。



- ② [ファイル名] ボックスに任意のファイル名を入力して、[保存]ボタンをクリックすると、RDS データテーブルファイルが保存されます。ファイルの拡張子は “.RDP” となります。

(2) 上書き保存

現在開いている RDS データテーブルファイルを上書き保存します。

メニューバーで [File] – [Save] を選択するかツールバーの  をクリックすると、ファイルが上書き保存されます。

■備 考

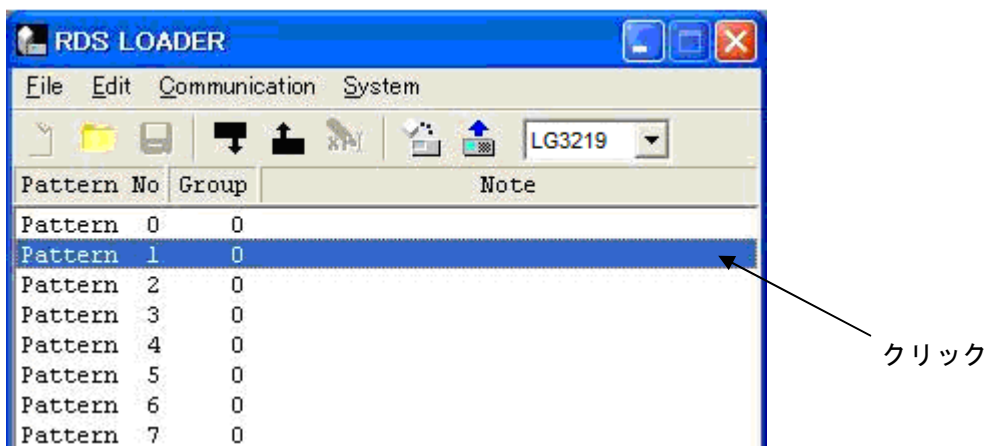
最後に上書き保存をしてから、データテーブルの内容に変更がない場合、上書き保存の操作は行えません。


3-6 RDSデータテーブル作成

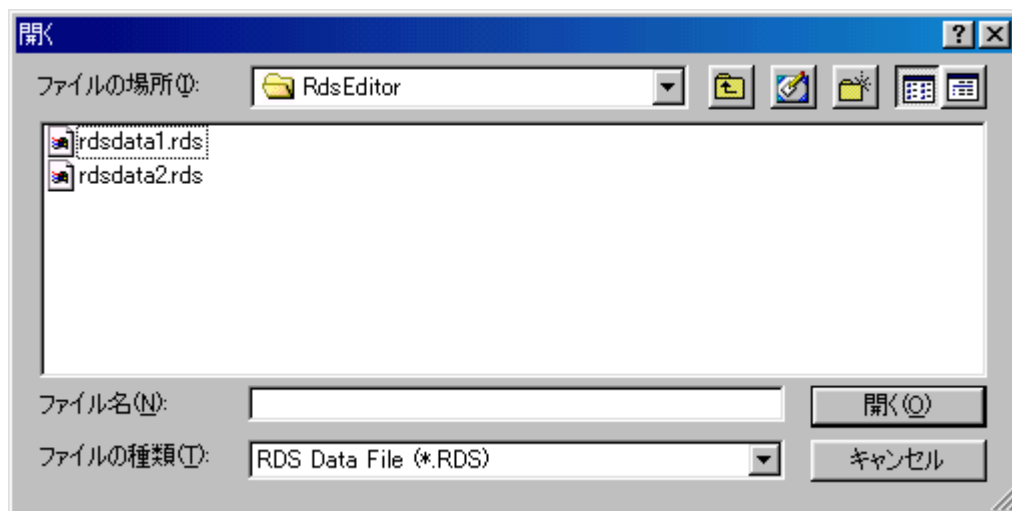
3-6-1 インポート

ダウンロードする RDS データファイルを、指定したパターン番号にインポートします。最大 2 048 グループまでインポートできます。

- ① インポートしたいパターン番号をクリックします。



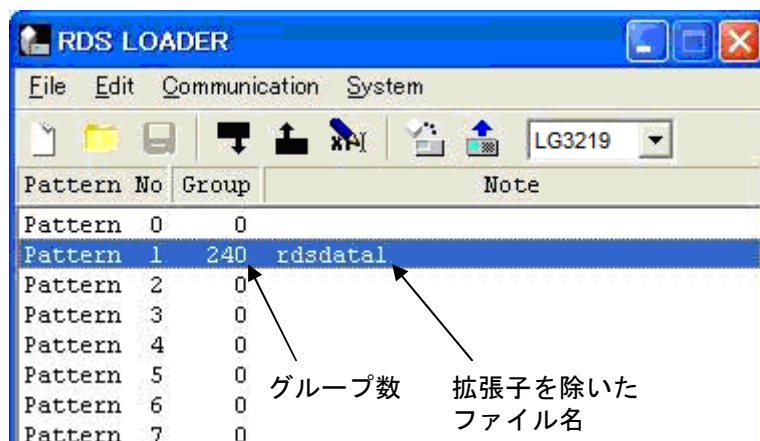
- ② メニューバーで [Edit] - [Import] を選択するか、ツールバーの  ボタンをクリックすると以下に示すダイアログが開きます。



- ③ インポートしたいファイルを選択し、[開く]ボタンをクリックすると、選択した RDS データファイルがインポートされます。

拡張子を除いたファイル名とグループ数がパターンデータテーブル表示部に表示されます。ファイル名は半角英数字で 30 文字まで表示されます。日本語（半角カタカナを含む）では表示できません。

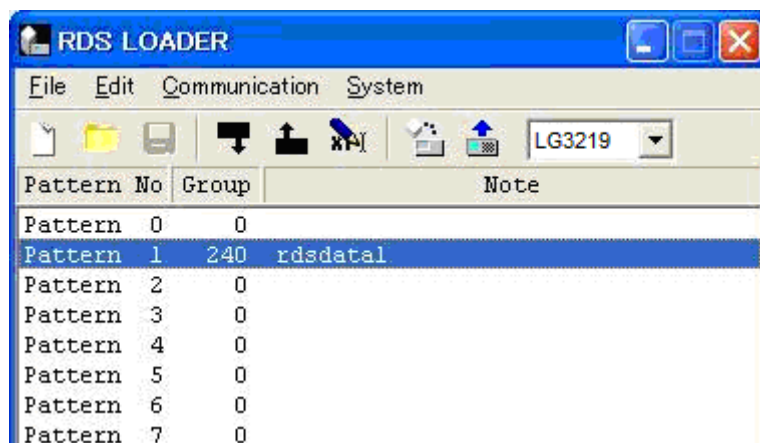
登録したパターンデータのグループ数の合計が 2 048 グループになるまでファイルをインポートできます。




3-6-2 ファイル名編集

RDS データテーブルに登録したファイル名を編集できます。インポート元のファイル名は変更されません。(インポートについては 3-6-1 項参照) 半角英数字で 30 文字まで入力できます。日本語は（半角カタカナを含む）使用できません。

- ① ファイル名を編集したいパターン番号をクリックします。



- ② メニューバーで [Edit] – [Note] を選択するか、ツールバーの  ボタンをクリックすると、以下に示すダイアログが開きます。

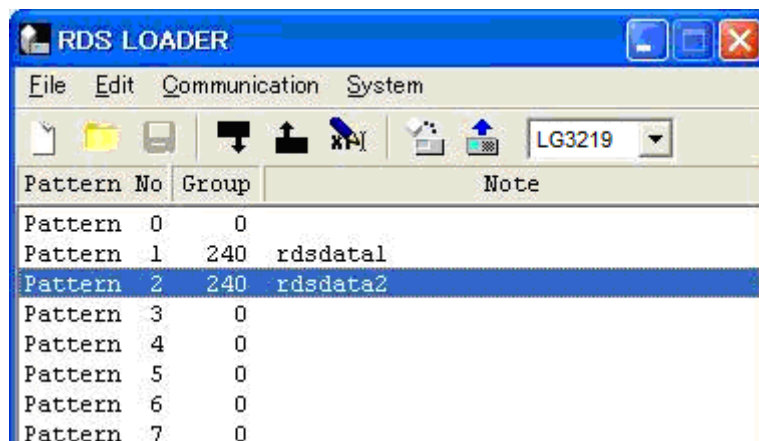


- ③ 変更したいファイル名を入力し、[OK]ボタンをクリックすると、設定が有効になります。[Cancel]ボタンをクリックすると設定内容が無効になります。

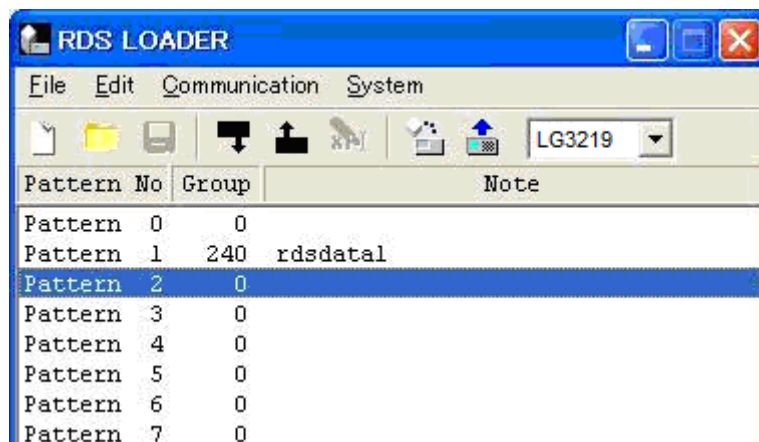
3-6-3 登録削除

登録したパターンを削除できます。

- ① 削除したいパターン番号をクリックします。



- ② メニューバーで [Edit] – [Remove] を選択すると、登録が削除されます。




3-7 RDSデータのダウンロード / アップロード

RDS ローターで作成した RDS パターンデータテーブルを、RS-232-C インタフェースを介して本体にダウンロードします。また、本体にダウンロードされた RDS パターンデータテーブルを、コンピュータにアップロードすることも可能です。

以下にダウンロード / アップロードの操作方法を説明します。


3-7-1 RDSデータのダウンロード

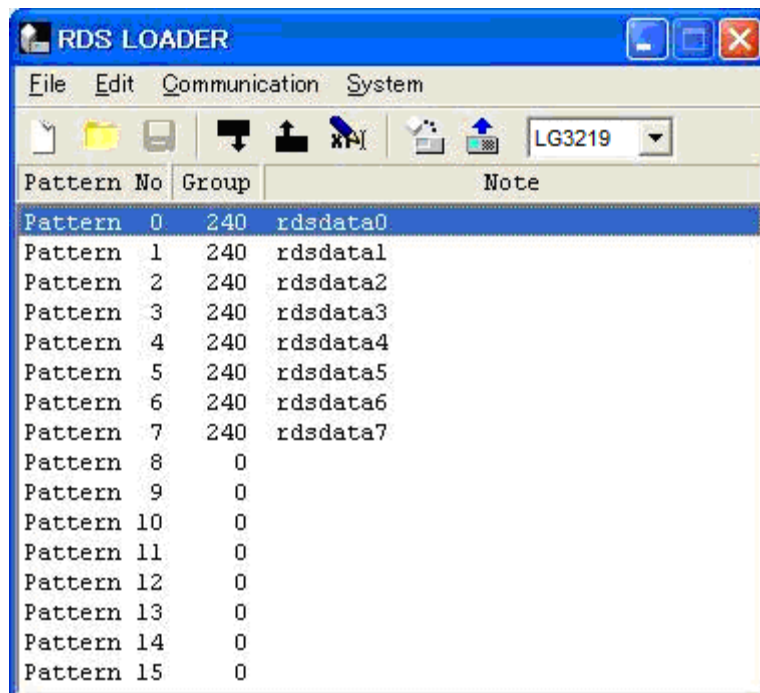
RDS ローターで編集した RDS データテーブルを本体にダウンロードします。

- ① メニューバーで [Communication] - [Download...] を選択するか、ツールバーの  ボタンをクリックすると、接続に使用するコンピュータの通信ポートの設定ダイアログが表示されます。
- ② 接続に使用するコンピュータの通信ポートを選択し、[OK] ボタンをクリックすると、ダウンロードが開始され、本体に RDS データがダウンロードされます。

3-7-2 RDSデータのアップロード

本体の RDS データをコンピュータ上にアップロードし、表示・編集できます。

- ① メニューバーで [Communication] - [Upload] を選択するか、ツールバーの  ボタンをクリックすると、接続に使用するコンピュータの通信ポートの設定ダイアログが表示されます。
- ② 接続に使用するコンピュータの通信ポートを選択し、[OK] ボタンをクリックすると、アップロードが開始され、パターンデータテーブル表示部にアップロードされたデータが表示されます。



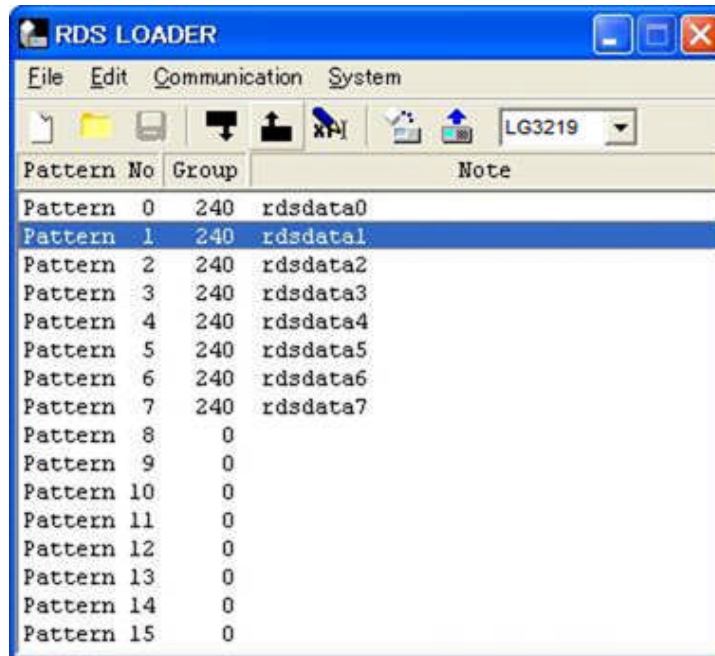
The screenshot shows the RDS LOADER application window. The title bar reads 'RDS LOADER'. The menu bar includes 'File', 'Edit', 'Communication', and 'System'. The toolbar contains various icons, including a download icon and an upload icon. A dropdown menu is open, showing 'LG3219'. Below the toolbar is a table with the following data:


| Pattern No | Group | Note |
|------------|-------|----------|
| Pattern 0 | 240 | rdldata0 |
| Pattern 1 | 240 | rdldata1 |
| Pattern 2 | 240 | rdldata2 |
| Pattern 3 | 240 | rdldata3 |
| Pattern 4 | 240 | rdldata4 |
| Pattern 5 | 240 | rdldata5 |
| Pattern 6 | 240 | rdldata6 |
| Pattern 7 | 240 | rdldata7 |
| Pattern 8 | 0 | |
| Pattern 9 | 0 | |
| Pattern 10 | 0 | |
| Pattern 11 | 0 | |
| Pattern 12 | 0 | |
| Pattern 13 | 0 | |
| Pattern 14 | 0 | |
| Pattern 15 | 0 | |

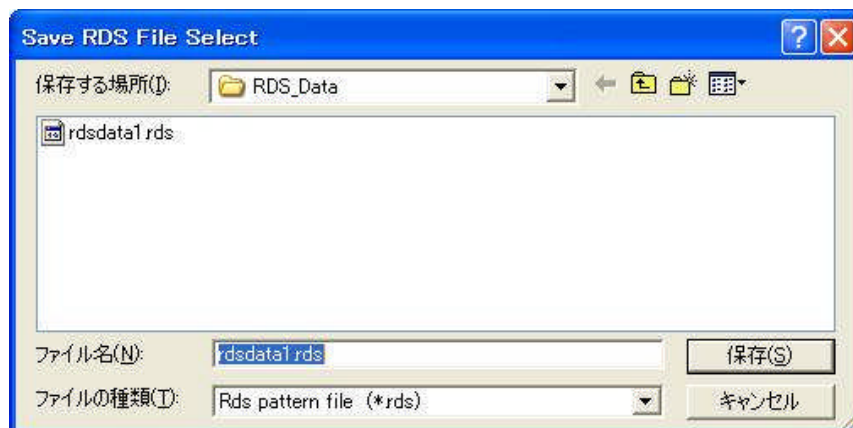
3-7-3 RDS データのエクスポート

本体からコンピュータ上にアップロードした RDS データを、ファイルとして保存できます。

- ① エクスポートしたいパターン番号をクリックします。



- ② メニューバーで [Edit] - [Export] を選択するか、ツールバーの  ボタンをクリックすると以下に示すダイアログが開きます。



- ③ ファイル名を入力して[保存]ボタンを押すと、RDS データがファイルとして保存されます。

LEADER

リーダ一電子株式会社 <http://www.leader.co.jp>

本社・国内営業部 〒223-8505 横浜市港北区綱島東 2 丁目 6 番 33 号 (045) 541-2122 (代表)